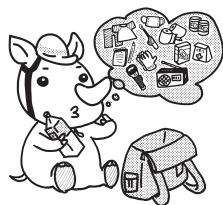


港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

137号（発行2025年4月）

*入会随時受け付け中



ホームページ



FaceBook

防災＝命を救う備え 生き抜いてこそ備蓄は役立つ

防災対策と言うと備蓄や避難所の確認等の話になりがちです。昨年8月に出された南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の後の報道で、ある大学教授が「とるべき対応は備蓄等ではなく避難所の確認です」と述べていました。しかし地震対策で最も大切なのは命を守ることです。命が守られたからこそ避難所や備蓄が必要になるのです。

耐震シェルターの効果

命を守る補助金いろいろ

住宅の耐震度アップの大きなネックは高齢者です。もう先が短いのだからとつい二の足を踏みがちですが、この度政府は70歳以上なら利子負担なしで耐震改修の融資を受けられるようにしました。自宅と土地を担保に金融機関から融資を受け利息は政府が払います。元金は死亡時に相続人が物件を売却するなど返済できるそうです。1980年6月以前の住宅に住んでいる高齢者にはかなりのインセンティブが働くのではないのでしょうか。



いでしょうか。一方何回かこのニュースでも取り上げた防災ベッドや耐震シェルターへの補助も増額されました。横浜市は今年度から、防災ベッドは10万円→20万円、耐震シェルターは30万円から40万円に引き上げました。防災ベッドの価格は30万円から40万円程度、耐震シェルターは70万円から130万円程度(大きさで違う)ですから十分に検討するに値するものだと思います。

巨大地震注意でどんな行動をとったか

しかし災害対策はなかなか進まないのが現実です。東大や野村総研がこの発表の後行った調査では、約8割の人は臨時情報が出た事は知っていたし、このうちの6割から8割は地震が起きると考えていたにもかかわらず、行動化する人は少なかった結果が出ています。

東大の調査では地震や津波の被害が予想される地域でも避難場所や避難経路の確認をした人はわずか6%、家具の転倒防止確認は9%、水や食料の備蓄確認をした人も21%でしかありませんでした。南海トラフ地震が起きる確率は30年以内に70～80%と言われているにもかかわらずなかなか防災対策が進まない現実が見えてきます。

ではどうすれば防災対策は進められるのでしょうか。その答えの1つは地域に暮らす私たちが日常会話の中に防災の話題を入れる工夫をすることです。また災ボラ会員の児島さんが行っている災ボラニュースの地域配布もその一つと言えるでしょう。多くの人にとって防災はちょっと遠いテーマだからこそ、日常会話の中に防災の話題を取り入れる努力が災ボラのメンバーに求められています。

宅建業の方に講演 借家住まいの災害時対応が見えた

町内会役員に不動産業の方がおり、宅建協会での講演を頼まれました。そこで東日本大震災での宮城県の宅建協会の活動を知りました。賃貸住宅だとこの後も住み続けられるのかとか家賃はどうなるのかなどの心配が出てきます。当日お借りした宮城県の不動産業者・管理業者のための震災対応マニュアルを読むと、震災当時大家さんや不動産業者さんが店子の安否確認に走ったこと、家賃を取らなかったケースも多くあったこと、津波で家を失った方々の需要に次々と応えていったことなど、この業界ならではの事情がよく分かり新たな気づきがありました。

以下は当日の主催者からの感想です。

(宇田川)



「災害時の防犯対策」は

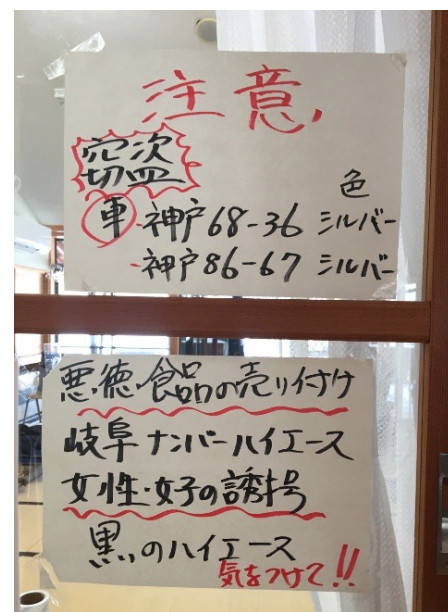
港北区宅建防犯協会 会長 岩田清

港北区宅建防犯協会は（公社）神奈川県宅地建物取引業協会横浜北支部の港北区内の約260社の会員で組織する団体で地域や消費者から信頼される不動産業者として犯罪のない安全安心な街づくりを推進し、青パトによる防犯パトロールを始め、会員の防犯意識を高める講習会の開催や地域の警察、役所、自治会・町内会などと連携した住民の皆様に向けた防犯キャンペーン等の啓発活動を通じて、港北区が住みたい街・住んで良かった街となることを目指して活動しております。

また防犯だけにとどまらず、近年頻発化・激甚化している自然災害、また南海トラフや首都直下などの巨大地震の発生も懸念される中、防災減災の意識を確認・向上させようという活動にも取り組んでおり、防災士による港北の地域特性からみる防災セミナーや消防団にご協力頂きながらのAEDの使用講習会なども実施して参りました。直近では令和7年2月17日（月）に宅建協会横浜北支部会館において国際救急法研究所の宇田川理事長に『災害時における犯罪と自分を守る防犯対策』とのテーマでご講話いただきました。

当日は大規模災害への関心も高く定員を超える多数の会員が熱心に受講し、事前の備えの重要性や発災後、被災地や避難所でどんな犯罪が起きるか等具体的な内容で被害防止・減災につながる有意義な講習会となりました。

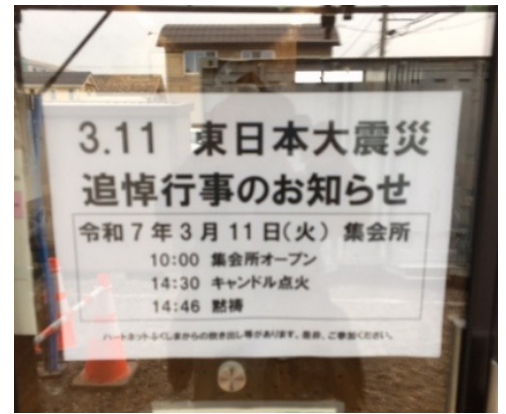
災害が「明日起きるかもしれない」という意識のもと、安全確保を第一に自らの事業所内の備えと共に『家は命の入れ物』であることを念頭に、提供する物件の耐震性の向上はもちろん入居者やオーナー様にも備えの必要性を広めていくことが重要であり、加えて発災時には地域の不動産業者としてどのように社会的な役割を果たすべきかを再確認する機会になりましたこと、宇田川理事長に改めて感謝申し上げます。



七尾市の避難所の注意書き

5年ぶり、福島での311

ずっとお付き合いしてきた郡山市にある復興住宅に5年ぶりにお邪魔しました。東原住宅は双葉町や大熊町から避難してきた方が多く住んでいます。そこで活動している防災仲間のハートネットふくしまの吉田さんの応援を続けてきました。二本松市にある青年海外協力隊の講義に合わせ訓練所の候補生にも呼びかけたところ「せっかく福島に来たんだから何かしたいと思っていた」との声も上がり、毎回彼らと一緒に活動してきました。集会所に若い人が来るのは大歓迎されました。彼らとは赴任後も手紙を送るつきあいがつづいていました。



集会所入り口の案内



東にある双葉町、大熊町方向を向いての黙とう

それがコロナでできなくなり今回5年ぶりの訪問となったのでした。昔なじみの方といろいろ話をしていると、過去の災害と同じ問題を聞きます。

「亡くなっていたのがわからなくて5日経ってたんだよ」

「仮設の方が人付き合いが多くてよかったね」

神戸から続く問題です。普段の付き合いが壊される災害後の生活をどうすれば支えられるのか、とても大切でかつ難しい問題です。

この日は2時過ぎになると点火のためのろうそくの火が消されるほどの風が出てきました。それは東からの風。東には皆さんが帰りたくても帰れなかった双葉や大熊の町があります。何かあるのだろうかと思わされる瞬間でした。

2020年の3月11日にはこの時間に虹がかかり、吉兆となればと思ったものでした。今年の数字は311の隣に11も並べられました。同じように災害で苦しんだ能登のことも忘れない気持ちはうれしく感じられました。

帰りの郡山の駅前でも追悼式が開かれており、福島各地の復興住宅の方も描いた絵のぼんぼりが並べられていました。東原住宅で協力隊との窓口になってくれた渡辺さんの作品もあり一緒に写真を撮ってさよならしました。

当日は郡山市社協の避難者生活支援相談室の方も見えており、今後の支援活動の窓口が一つ増えました。早速女川のお母さんたちも取り組んでいる新聞バッグを作って地元商店に販売できないかの相談を持ち掛けています。女川からは交流をしたいとの声も聞こえてきました。

(宇田川)



東原住宅の渡辺さん

防災・減災アイデアコンテスト

今年度も「防災・減災イラストコンテスト」を区内の小学生を対象として実施させていただきました。今年も多くの作品のご応募をいただきました。下記の3作品を優秀作品として、記念品と賞状を贈呈させていただきました。



イラスト上部の「壁」にヒビがかいているなど、災害を実感させてくれるイラストでした。



「腕時計が懐中電灯になればいいのに」とコメントいただきました。確かにそうですね。



「避難所生活は野菜不足になるから、青汁を持っていこう!」イラスト上部の「青汁」が光っています。

【3月定例会報告】

開催日時 2025年3月19日(水) 10:00~12:00

開催場所 港北区社会福祉保健活動拠点 3階多目的研修室

参加者 会員 11名(zoom参加1名含む) 区社協 3名

会員の現況報告、今年度の活動の振り返り、2月開催セミナー時にいただいた質問についての区役所総務課からの回答の確認などを行いました。また、来年度の活動に向けて、どのような活動をするべきか、したいかの意見交換を行いました。

教えて災ボラさん!

防災や減災、災害時の「あんなこと」「こんなこと」。日頃の疑問にお答えします。右の二次元コードから、貴方の疑問教えてください。調査・確認の上、ニュース誌面で可能な限り回答させていただきます。



【編集後記】

- 毎年のように襲来してくる災害、私の頭の中は記憶もですが悲しい思いで一杯です。(付岡)
- 今回の記事で、地域のことは知っているようで知らないことや気が付かないことがまだまだたくさんあるのだと気付かされました。地域や社会という言葉一つにどれだけの人々が含まれているのかを知らないといけないのですね。(高橋)
- 港北区医師会による市民トリアージの話を聴きました。「行なったトリアージは全部正しい」(間違いを恐れてしないよりすることが大事)という言葉が印象的でした。(室伏)
- 3月21日と22日、珠洲市に18歳~25歳のボーイスカウト40名が奉仕に入りました。現地では災害救援レスキューアシストの皆さんにお世話になったようです。(中島)